

1日 おぢば伏せ込み団参(午前中)  
 敷津分教会会長就任奉告祭  
 4日 岡心勇隊佐賀地区  
 7日 岡心勇隊奈良中和地区  
 8日 第18回生活復興ひのきしん隊  
 9日 岡心勇隊五條橋本(あやの台)  
 11日 鼓笛隊練習日  
 13日 婦人会委員会 岡心勇隊八幡地区  
 教会おとまり会(岡隊・飛鳥川隊)  
 14日 岡心勇隊奈良中和地区  
 おかウインターキャンプ  
 13日 岡心勇隊伏せ込みひのきしん(道弘)  
 15日 岡心勇隊御所会場  
 岡心勇隊大阪地区  
 18日 大教会伏せ込みひのきしん(相嘉)  
 事務局会議 祭典準備ひのきしん  
 21日 大教会伏せ込みひのきしん(表野)  
 22日 大教会伏せ込みひのきしん  
 23日 大教会月次祭  
 役員・直属教会会長会議  
 24日 婦人会話所ひのきしん  
 教会長夫妻教理研鑽「教祖伝」  
 KOG全体会議 少年会委員会  
 ようばく育成部会 婦人会連絡会  
 教会活性支援部会

24日 大教会伏せ込みひのきしん(東松浦)  
 25日 おぢば伏せ込み団参(早朝)  
 26日 誦所運営委員会 学生担当委員会  
 教養掛実技勉強会 青年会委員会  
 28日 本部月次祭 祭典後お礼つとめ  
 岡心勇隊福岡中央地区  
 ◆教養掛(2月)  
 武生水 塚元孝雄  
 教養掛補佐(2月)  
 表田 上田耕平  
 ◆修養科第882期修了者(12月27日修了)  
 住之都 山科広希  
 ◆別席願(12月16日〜1月15日誦所受付分)  
 表野 蓮池理弘  
 飛鳥川 出口裕也  
 肥東 山口明子  
 天神免 池田大貴  
 西北 重光浩平  
 南阿太 芝田沙姫

【訂正】  
 元日号掲載の「おさづけの理拝職者」住之都・山科広樹は山科広希の誤りでした。また、「事情運び」の敷津分教会の所在地誤りがありましたので、左記の通りお詫びして訂正いたします。  
 所在地 奈良県桜井市巻野内189・5

お誕生おめでとう



奥村 つむぎちゃん  
 12月7日生まれ  
 奥村慎二さん、ふみのさんの長女として生まれました。  
 (岡村分教会)



森井 善大くん  
 12月1日生まれ  
 森井正次さん、典子さんの二男として生まれました。  
 (岡大教会)

家族みんなそろって  
**おぢば伏せ込み団参へ**  
 2月1日(日)・3月1日(日)  
 10時 集合/ひのきしん実動  
 12時 定時のおつとめ参拝

皆さんの参加をお待ちしています

※ゆめたくご出産の方は、どうぞご連絡ください。  
 〒634-0111 奈良県高市郡明日香村岡 395  
 天理教岡大教会「会報編集部」宛  
 TEL / 0744-54-2002 Email / oka@oka.or.jp

ようぼくの心と心をつなぐ

立教178年(H27) 1月23日発行

News Letter

心勇講「別席団参」ポスター

教祖 130 年祭 年祭活動仕上げの年

# 心勇講 別席団参 強調年



誠心団結

教祖大教会 明和大教会 明城大教会 岡大教会 東海大教会  
 東神田大教会 紀陽大教会 松阪大教会 秋津大教会

6月27日(土) 10月25日(日)  
 には、初席・中席・満席の方と共に、  
 おぢばへ備らせていただきます!

明治27年教祖分教会設立にあたって初代真柱様より「誠心団結」との御言葉を遺されました。「一きつ、一教団結して助け」と真実誠心からなる意志です。

教祖百三十年祭活動「仕上げの年」。元の上級である敷島大教会の会長様より、「心勇講 別席団参」をお打ち出し頂きました。「心勇講の流れを受ける大教会が一手一つに、別席者をお連れして、おぢばを精一杯賑やかにしよう」とのお声です。さあ、今こそ力を集結して、別席者をおぢばにお連れしましょう。

大教会「教祖年祭」ポスター



## 教祖130年祭

人類のふるさとおぢばへ

立教179年1月26日(火)  
 (平成28年)

天理教岡大教会

「教祖を身近に さあ今日もおたすけを」

年祭への取り組みを進める上から、大教会挙げて掲げている「教祖を身近に」との思い。この思いを具体的に実践する上から、「教祖年祭ポスター」「おたすけ祈願書」「真心のお供え封筒」の活用を呼び掛けています。  
 ※詳しくは、5ページをご覧ください。

# 事情・身上は神のほうき

## 大教会役員 蓮池弘之



9月から3カ月間、修養科の一期講師をつとめさせていただきました。私を受け持ったクラスには、がんの身上を抱えておられる方が6人いたのですが、その中の一人に大腸がんを患っておられるKさんという方がいました。

Kさんは、修養科一カ月目の20日、吐血されて「天理よろづ相談所病院」に入院することになりました。大腸がんが見つかったのは、この年の5月。その時、すでに「手術はできない」という状況で、胃や肝臓、筋肉にまで転移していたそうです。「私はおちばで出直す」という覚悟で修養科に来ておられたようですが、クラスでは、「最後まで一人も欠けることなく」との思いでいました。入院されてからは、このKさんのたすかりを願って「クラス全体でお願いごとめをつとめさせていたきたい」とお願いし、昼食後などの時間をお互いで取っていただいて、それぞれ神殿でつとめさせていたいただくことになったのです。

Kさんの、この大きなご守護を喜び合うクラスの中に、肺がんを患うFさんがいました。この方は、早急な手術が必要だと病院から言われていたのですが、3カ月間病院には行かずにつとめられました。またもう一人、肝臓がんから3度の手術をし、修養科中にごんの再発がわかったBさんがいました。お互いに身上ご守護を願っておられる二人。「どうかこの二人を結びつけられないか」と考えていたある日、FさんがBさんに「おさづけをさせてほしい」とおさづけの取り次ぎを願っておられたのです。このFさんは60歳を過ぎておられ、若い時におさづけの理を拜戴されていましたが、これまでぜんぜんおさづけの取り次ぎはされていませんでした。しかし、この3カ月の修養生活の中で、しかも大きなご守護を目の当たりにする中で、「おさづけを取り次ぎがせていたきたい」という気持ちに変わっていったのです。

Bさんにおさづけを取り次ぐFさんの姿に気付いた私は、その後ろで添い願いをしていました。そして、おさづけの取り次ぎが終わると、Bさんはそのまま帰りそうになったのです。私は「どうかこの二人を……」と思っていましたので、Bさんに声を掛けました。お互いの込み入った話は、修養科といえどもなかなかできないものなのでしょう。Bさんは、Fさんの身上を知りませんでした。

私はBさんに、Fさんへのおさづけをお願いしました。すると、Bさんはうつむいて黙ってしまったのです。少しためらい、声を掛けようとする、おもむろに顔を挙げたBさんは涙を流しながら「神様はおられます」と一言。そして、おさづけを取り次いでくださいました。

この後二人は、手術の都合でBさんが途中で帰るまでの間、お互いに毎日おさづけを取り次ぎ合っていました。お二人とも、大病を抱える大変な中をおちばへ帰り、それぞれの思いの中でご守護を願う。そして、修養生活を

初めの1、2回は、私も昼食後の時間にみんなと一緒にさせていただきましたが、一期講師はさまざまなおこなさなければなりません。自分で時間を見つけて、お願いごとめやおさづけの取り次ぎに行かせていただけて、「みんなと一緒に」とはいかないのです。組係を連れて一緒に病院へおたすけに行く道中、「私一人では無理だから、代わりにお願いごとめをしてほしい」と頼みましたら、それからは3人の組係が相談して、交代でつとめてくれるようになり、修了までの毎日、お願いごとめをつとめてくれました。

10月6日、Kさんは退院され、授業にも復帰できました。座るのがつらい状態でしたので、将棋椅子に横になりながらの授業でしたが、そんなある時、他のクラス担任から「先生のクラスすごいな」と声を掛けられました。私は気付いていなかったのですが、午前の授業が終わると、クラスの仲間がおさづけを取り次ぎ、添い願いをしている姿があったのです。最初は、組係がおさづけを取り次ぎ、数人が添い願いをしていたそうです。しかし、Kさんの体力が日に日に弱り、授業に出る日数も少なくなっていく中で、徐々にクラス中がKさんのたすかりを願っておさづけを取り次ぎ、添い願いをするようになっていったというのです。

この姿に、クラス担任の私が気付いていないというのが面白いと思うのですが、私は担任を持っていきますので、自分の采配の中で物事が進んでいくように勘違いしていたのです。しかし、そこにはそれぞれの心があります。それぞれが心の成人、自らのたすかりを求めて修養科にいられています。神様からお引き寄せいただいた修養科ですので、修養生活を通して成人をお見せ下さる姿があったのです。

Kさんは、日に日に容体が悪化する中でしたが、ご自身は「修養科を修了させていただく」と言い続けていました。しかし、看病にいられていた奥さんや子供さん方は、「家族の思いは、帰れる時に連れて帰りたい」と。そして、「蓮池先生、修了までと、余計なことは言わないでください」と言われました。その時はショックでしたが、やはり「このおちばでたすけていたきたい。なんとかみんなでご守護頂きたい」と努めさせていただきました。

しかし、今度は腸が破裂してしまい、10月26日の未明に緊急入院すること

通して、親神様・教祖が相手のたすかりを願う気持ちに立て替えてくださったのです。本当にありがたく、うれしく、私自身もすっかりこの教祖の御心を伝えさせていただかなければと思ひ、つとめさせていただきました。

修養科の一期講師を務めさせていただき、一番感じたことは、「自分が一番わかっていなかった」ということです。私自身が、理解しているようで、理解していない。感じているようで、感じていない気がするのです。

授業の中で「神がほうき」という言葉を使っていたのですが、この「ほうき」について考えてみました。「神がほうきとなって……」。よく聞かせていただくことを思い返せば、おつとめをすることで心をきれいにしていたかどうか。また、それだけではなく、自分自身に事情や身上がなくても、人のたすかりを願うことによっておつとめに心がこもり、わが心のほこりを払ってくださることにつながるのです。

神様は事情や身上を通じて、おつとめを勤めることの大切さを気付かせてくださいます。心のほこりを掃除するために、八つのほこりなどさまざまな教理を教えてくださいますが、事情や身上が表れてくること自体が、神がほうきとなって心のほこりを掃除してくださるということではないでしょうか。また、それだけではなく、自分自身に事情や身上がなくても、人のたすかりを願うことによっておつとめに心がこもり、わが心のほこりを払ってくださることにつながるのです。

『おふでさき』に、「をやのめにさねんものハなんとときに ゆめみたよふにちるやしれんで(十五 67)」とあります。この一首だけをみると、ものすごく厳しく感じます。しかし、この前の一首に「をやのめにかのふたものハにちくくに だんくく心いさむばかりや(十五 66)」ともあります。親の目にかなう日々を送らせていただく心を持てば、だんだんと心は勇んできます。そして、この勇み心が、親の目に適う日々を送れるもではないかと思ふのです。

いよいよ、教祖年祭活動の“仕上げの年”を迎えます。進んでおつとめを勤め、おさづけを取り次ぎさせていただき、胸の掃除をしていただきながら、心の成人を教祖にご覧いただきたいの思いで、残りの期間をつとめさせていただきますと思います。

# 「一人がひとりの人を連れておぢばへ」

## 部内教会一斉巡教実施

昨年11月23日に受けた「本部巡教」。そのご本部の「をやの声」を、岡につながる全部内教会、ようぼく・信者へ届けるために、現在、「部内教会一斉巡教」が行われています。

真柱様は、昨年の秋季大祭で「これから百三十年祭まで残り1年3カ月は、年祭活動の正念場。ともどもに年祭活動をくいなくつとめきつて、年祭の年にはご存命の教祖に仕切つての成人の姿と、年祭活動の成果をご覧いただきたい」とお諭しく下さいました。また、11月の本部巡教では、講師の西浦忠一本部員が『論達第3号』を取り上げながら、「年祭活動は、すべてできるようがおたすけに取り組むことを目指して進められている」と話し、「ご恩報じの道こそ、心の成人の道。頂戴しているご恩をお返しする道は人だすけであり、にをいがけ・おたすけであり、一言の声掛け」「いま一度、自らの通り方を省み、仕切り直してつとめていただきたい」と求められました。

これを受けて大教会では、「部内一斉巡教」の実施を決定。さらに、「年祭活動」仕上げの年、

の足並みをそろえ、出遅れることのないように」との思いから、本部巡教を受けることができなかった部内教会を対象に、本部巡教終了直後の12月から巡教を実施してきました。

年が明けて、年祭活動「仕上げの年」を迎えた1月。6日の岡瀧分教会、南阿太分教会を皮切りに、本格的な一斉巡教がスタート。大教会役員が部内教会へ出向して、にをいがけ・おたすけの実動を通して「心定め」の目標達成を目指すし、教祖年祭に向けて「別席団参を活用するなどして、一人がひとりの人をお連れし、おぢばへ帰らせていただきますよう」と呼びかけられました。

ひとりの人をおぢばへお連れするには、一言の声掛け、にをいがけ・おたすけしかありません。「正念場」とは、真価を問われる大切な場面という意味です。また、「仕上げ」とは、物事を成し遂げるための最後の行程という意味です。来るべき日を見据え、親神様・教祖にお喜びいただける歩みを、いま進めさせていただきましょう。

# 「誠心団結」を合言葉に

誠心団結とは、敷島大教会創立に当たって戴いた初代真柱様の御揮毫である

私達の信仰の源流は、おぢばより至宝の教えを受けた心勇講敷島の道に端を発する。敷島初代山田伊八郎先生を先頭に歩んだ大勢の求道者集団は、教祖から頂戴した「一の筆」の名にこそ恥ぬようと、ご恩報じ一筋におたすけに進み、おぢばの御用に誠心団結して進んで来られた。その歩みの一つが、北礼拝場普請への全柱材献木として『みちのとも』にも掲載されている。

時は流れ、岡も昭和15年に分離昇格して本部直轄の大教会となり、現在までに明和、明城、岡、東海、紀陽、東神田、松坂、秋津と心勇講の流れを汲む大教会が誕生している。

そして、迎えた教祖百三十年祭への年祭活動仕上げの年を間近に控えた昨年11月27日、敷島大教会長様より心勇講関係教会による「別席団参 強調年」実施の提案があった。その場に居合わせた関係8大教会長が加わって相談の結果、全員一致で合意した。内容は次の通りである。

## ポスター・祈願書・封筒など 独自の取り組みも

▼別席者を連れてのおぢば帰り強調は通年であるが、統一日（6月27日、10月25日）には心勇講関係教会でおぢばを精一杯賑やかにさせて頂く。但し、統一日の行事などは持たず、別席を運ぶことだけに集中する。おぢば参拝も各大教会で考える。

▼この活動を周知徹底するために、ポスターを作成して関係教会等で掲示する。また、「誠心団結・心勇講」の缶バッジを作って、関係者は常時ハッピーに付けて勇み心結び合う。

※岡大教会では1月23日配布予定

▼この活動を通して、関係教会はどうでも構わないでもの精神で、年頭の心定め達成を目指し、論達第三号に示されたおたすけの実動に向かう。

年祭活動は教祖へのご恩報じであり、その具体的な行動として、親神様の御教えを伝え広めています。そして、たすかりを願って真剣におつとめをつとめ、心を込めておさづけを取り次ぐ。また、日々頂戴する御守護に感謝し、その真心を教祖へお届けさせていただく――。

岡大教会としても、心勇講の大きな動きの中で勇ませて頂くと共に、「教祖を身近に」との思いを具体的に進めるためにも、独自の取り組みを始めています。

一つには、教祖百三十年祭を教内外広くにアピールするための大判ポスター。各教会の屋外で目立つ所に張り出す予定です（1月23日配布・屋外用仕様）。そして二つ目は、昨年から実施している「おたすけ祈願書」。おたすけを願う方を用紙に記入することで思いを形にし、教会に寄り集う者が、会長を志に一手一つにおつとめを勤めます。つまり、「たすけつとめ」を、皆で勤めるための一助になればとの思いからです。また三つ目は、「真心のお供え」封筒を全ようぼく信者に使って頂き、月々教祖へのお礼心を運ぶことにより、教祖年祭への思いを高めていきます。

いよいよ、年祭活動「仕上げの年」。一人ひとりの誠心を結集し、教祖にお喜びいただける歩みを進めさせていただきます。



大教会が独自に作成した「おたすけ祈願書」と「真心のお供え封筒」

# 学生生徒修養会・大学の部

期間／3月3日（火）～9日（月）  
内容／講義、グループワーク、にをいがけ、ひのきしん修練（おつとめ練習）など  
対象／大学、短期大学、大学院、専門学校、高等専門学校4年生以上で、全期間受講できる者  
申込／願書受付期間は2月25日（水）まで  
※詳しくは、岡学生担当委員長 出口浩和 まで  
☎0744-54-2174（飛鳥川分教会）

共に笑い、  
共に涙を流し、  
共に学び合う……  
おぢばで出逢う  
大切な仲間がいる――。

# 教祖年祭まであと11カ月

## 「岡心勇隊」で「たすけの渦」を拡大

教祖百二十年祭へ向かう年祭活動。仕上げの年に、岡につながる教会長やようぼく・信者が『諭達』に込められた『人をたすける心』を受け止め、自ら進んで布教活動に歩む具体的な動きを展開しよう」との思いから始まった「岡心勇隊」。あれから、丸10年。いまだ月々の定期的な布教活動として定着し、それぞれの地域の教友が一手一つに実動。教祖百三十年祭へ向けての年祭活動にとっても、揺るぎない活動の柱となっている。教祖年祭まで、あとわずか。「岡心勇隊」が巻き起こす「たすけの渦」が、各地で拡大している。

街のいたるところにお正月の雰囲気が残る、1月9日。「岡心勇隊 五條橋本地区」の教友が、にをいがけチラシを手に「林間田園都市 彩の台」に集まった。

ここ「彩の台」は和歌山県橋本市に位置する、約1万2千400人が暮らす大規模ニュータウン。大阪、奈良、和歌山の3府県をつなぐ主要幹線道路の整備、学校や病院、商業施設などの誘致開発が進められており、現在、人口の上昇著しい街の一つとなっている。

大教会による「岡心勇隊」の提唱から、欠かすことなく活動している五條橋本地区。以前は、各教会を持ち回りで拠点とし、その周辺をにをいがけ。しかし8年前からは、「同じ場所地道な活動をしよう」と、現在の「彩の台」に会

場を変更した。

当日は、「一つの会場にこだわらず、近隣のお互いがそれぞれの会場に参加すれば、『岡心勇隊』が単なる布教活動だけでなく、教友の交流の場にもなる。そして、お互いの交流が深まれば、より活発な活動が展開できる（大教会長談）」と、大教会からも大教会長を含む5人が駆けつけ、合計18人が参加（写真右下）。午前10時から約1時間、広大なニュータウンを、一軒々戸別訪問に歩いた。

にをいがけ実動後は、近くの公園に全員が集まり、「ふりかえり」。にをいがけチラシの内容に関する「彩の台は子供の多い地域。子育て中の方へ向けたメッセージも効果的ではないか」、「もつと具体的な内容がわかりやすいと思



う」といった意見や、「相手の態度や口ぶりを通して、自分自身の普段の態度を省みることができた」、「ほんどのの方が天理教を知らず、興味すら持ってもらえていない。地域に根差した活動を展開し、もつと天理教の存在を伝えていきたい」と思っ「た」など、実際の実動を通して感じた心持ちな

どの意見を交換した。

そのほか、20代の参加者からは「一人ひとりの視点が違うので、とても勉強になり、自分自身の布教活動への視野が広がった」との声も聞かれた。

五條橋本地区の会場担当者、芝田真一・南阿太分教会長は、「この『岡心勇隊』も、早いもので10年。どれだけ親の思いにお応えできてい



るかとは別として、同じ地域の教友が会し、同じ思いで一手一つに実動できることが何より意義深い。『こどもおぢばがえり』への参加など、少しずつ芽吹きも見せていただいているが、これからもコツコツと地道に、しかし確実に種をまかせていただけるように歩みを進めたい」と話す。

このほか、「佐賀地区」、「奈良中和地区」、「八幡地区（福岡）」、「御所会場（奈良）」（写真左）、「大阪地区」、「福岡中央地区」、などで、毎月実施されている。（会報編集部把握分）

## 教祖130年祭「登殿祭列」終了

教祖年祭へ向かう年祭活動の旬に、全教会長が日頃のおたすけ活動の経過を親神様・教祖にご報告申し上げ、心定めを胸にさらなる決意を固める「登殿参列」。立教177年12月の本部月次祭をもって、すべての登殿が終了した（写真）。

大教会としては、前日に大教会役員による講話や大教会長のあいさつ、懇親会など、独

自のプログラムを「登殿参列」に合わせて実施。岡につながる教会長お互いの交流を深め、年祭へ向けての意気を高めた。

登殿当日は、おつとめ衣に身を包み、本部神殿の結界内で参拝。祭典後の山澤廣昭内統領によるあいさつでは「教会長が手本を示しつつ、たすけ一条のうえにおつとめいただきたい」との思いを受け、気持ちを新たにした。

## 12月登殿教会



後列左より／岡村、岡瀧、敷津  
前列左より／岡垣、岡萩、西大阪、眞世 計7教会

# いぎやかにお節会団参

年明けの5日から7日にかけて、おぢばで開催された「お節会」。教祖ご在世当時から連綿と続くこの伝統行事に、今年も全国各地から、8万7千282人が帰参しました。岡大教会としても期間中、各教会が「お節会団参」を実施し、大教会参拝では、大教会長に新春のごあいさつ。おぢばへの初詣で親神様・教祖に参拝し、ご本部の温かいお雑煮に、舌鼓を打ちました。この期間中には、別席者を連れておぢば帰りの人もあり、共に別席場へ。そのうち初席者の順序運びは5人でした（会報編集部把握分）。



東松浦分教会からのみなさん。「久しぶりのおぢば帰りで嬉しい」との人も。(6日)



陸走でのおぢば帰りとなった、西北分教会のみなさん。初めてのおぢば帰りで初席を運ばれた方もおられました。(4日)



少年会員でにぎわうのは、表野分教会のみなさん(5日)

## R178年 少年会岡団練成会／総会 3月30日(月)、31日(火)

30日の練成会では、総会でのおつとめに向けての、大切なおてふりや鳴物の練習を行います。そのほか、交流を深めるお楽しみ行事も盛りだくさん。また31日は、おつとめまなびと式典、会食、アトラクションなどが催されます。ぜひ、ご参加ください。



## 立教178年「春の学生おぢばがえり」

3月27日(金)～28日(土)

道の学生がおぢばに一同に会し  
共に信仰を深め合う「春の学生おぢばがえり」  
岡につながるお互いも  
共におぢばへ帰りさせていただきます

行事予定／27日 受付、オリエンテーション  
28日 式典、別席、直属アワーなど  
※集合、受付は27日の17:00に岡詰所で  
参加お供え／4,000円(食費、宿泊費など)  
対象／高校生、大学生、短大生、専門学校生など

【お問い合わせ先】→ 岡学生担当委員会まで  
担当：出口浩和／090-3054-1645  
みんな、27日17:00に詰所集合!!!

### 活動や取り組みを世界へ発信

現在、大教会では「会報」や「ホームページ」、「フェイスブック」を利用して活動や取り組みを紹介しています。おかげさまで国内はもとより、遠く海外の方にも閲覧いただき、「コメント」も寄せられています。より充実した発信を目指すために、皆さんからの情報、提案が必要です。どうか、「理解」と協力をお願いいたします。

【岡大教会】  
〒634-0111  
奈良県高市郡明日香村岡395  
TEL／0744-54-2002  
FAX／0744-54-3889  
E-mail／oka@oka.or.jp

### 婦人会「伏せ込みひのきしん」

R177年12月22～23日

立教177年最後の伏せ込みひのきしん。突然の雪に驚きましたが、年祭のその日、教祖にお喜び頂ける日が迎えられるように、心を引き締め、一手一つに勇んでつとめさせていただきました。



担当係／上田 敏江(表田)  
参加者／田原 由美(警固)、藤本 啓子(白石町)、小川二三代(千代町)  
由良野志津(肥陽)、西村悦子(紫王路)、吉田百合子(東松浦) 順不同

青年会員の皆さん！年祭活動ラストスパートです

# 一手一つに「心定め」の完遂を

## 青年会岡分会

教祖百三十年祭の年祭活動が始まった一昨年、青年会員の皆さんもご存じの通り、青年会岡分会（上田耕平委員長）では5つの「心定め」を定め、当時青年会長様だった真柱様に提出いたしました。

改めて、その心定めは

**達成** 笑顔で挨拶 百万回

**達成** 三万人へにをいがけ

一、おさづけ取り次ぎ

十万回

**達成** ひのきしん隊

一個班（20人）達成

一、海外拠点設立

の5つです。

掲げ、計画を進めています。  
一方で、問題は「おさづけの取り次ぎ十万回」。自ら進んでおさづけの取り次ぎをしてくださっている青年会員がいるなか、その集計が思うように進んでいません。また、「実行しているのが、特定の人に偏っているのではないか」という課題もあります。

年祭活動一年目の「第89回青年会総会」の席上、真柱様は「限られた者ばかりがやっている青年会ではなく、（中略）力を合わせて活発な活動を展開していくような青年会であってほしい」とお話しくださいました。また、昨年の「第90回青年会総会」では、真柱様と青年会長様から、実動にむけて強い思召を聞かせていただきました。

泣いても笑っても、教祖百三十年祭へ向けての年祭活動は今年で最後です。「仕上げの年」と言われるように、私たちは、教祖にお喜びいただける成人の姿を「仕上げ」なければなりません。

成人の形は人それぞれですが、目指す方向は同じです。青年会としてはこの「心定め」を道しるべに、とにかく一生懸命、悔いの残らないような歩みを進めたいと思います。教祖年祭まで、あと11カ月。皆さんの協力がなくして、青年会岡分会の内容充実はありません。どうか、一手一つに歩みを進めましょう。

## 一手一つに にぎやかに ご本部御供えお餅つき



年の瀬が迫る12月27日。大教会では、恒例の「ご本部御供えお餅つき」が行われました。つき手は青年会員と少年会員が中心に担い、ご本部へのお供えと、大教会の元旦祭、詰所の分などの鏡餅をつきます。その量、もち米に換算して約1石2斗。一白3升のお餅を3人一組で丁寧につき、二白分を一つに合わせて、6升の鏡餅に仕上げていきます。

午前8時30分。釜に火が入り、白を温め、もち米が蒸しあがるといよいよお餅つきのスタート。大教会の厨房からは、お餅をつくりズミカルな音と、元気で勇ましい掛け声が。ここ数年で中学生や高校生へと成長したメンバーが多く、つき手も「若返り」。しかし、ベテラン先生も交えて、勇ましく、手際良くお餅がつかれていきます。

人の手でつきあげられる「お餅つき」は、かなりの体力を要する「一日仕事」。それでも、「神様にお供えさせていただく鏡餅

づくりに携わることが幸せ」と、みんな笑顔。表野分教会から参加の蓮池理弘くん、上田悠馬くん、荒井誠人くんは「けっこうキツイけど、やりがいがあって楽しい」と話していました。

また、つき手と同じく、体力を必要とするのが、鏡餅の仕上げ。担当する先生方は、お餅が冷めないうちに形を整え、心を込めて美しい鏡餅に仕上げていきました。



詰所で勤めていた時に生まれた、和結太くん（写真中央右）、明守太くん（写真中央左）と一緒に。

## おしなわねまほろた

夫婦そろって伏せ込み

詰所で勤めてくださった金子秀司さん、益美さん夫妻（岡村分教会）が、このたび詰所勤務を終えられました。

秀司さんは大教会青年を終え、詰所での勤務を始めたのが平成21年12月。益美さんは、大教会女子青年の後に詰所で勤務し、実家の布教所へ。その後、平成22年6月の結婚を機に夫婦そろって詰所で勤められました。おちば帰りの宿泊の受け入れや館内外の清掃、維持管理、事務処理など、詰所運営の全般を担ってくださっていました。